

先輩に学ぼう!

あなたのキャリアストラテジー

第一回 農学部キャリア講演会 2005年9月29日

夏の陽射しの残る9月29日、卒業後の進路を考える学部生や大学院生のためにキャリア講演会が開催されました。農学部1号館8番講義室に企業や研究機関、官公庁などで活躍中の先輩方や研究活動続ける大学院生など総勢25名をお招きし、日頃聞くことのできない貴重な体験談や後輩へのアドバイスなどをご披露いただきました。200名以上の参加者が笑いとよめく場面もあり、会はずり込んで大いに盛り上がる状況となりました。終了後には講演者からじかに話を聞く懇談会も。ここでは当日の講演から6名の先輩たちの声をご紹介します。



北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット 特任助教授

決して思いどおりにはいかない

大学を卒業して、希望の企業に就職した。300倍の難関を勝ち抜いて入った、大手出版社。3年目の年収は1,000万近くあった。しかし、型にはまった少女小説を作る仕事は、自分が1日のほとんどの時間を費やしてやる仕事だと思えなかった。辞めて、長年の夢だった外国暮らしをしてみた。しかし、半年目に妊娠。夫は大学院に進学したので、お腹を抱えてフリーランスの編集・記者として母国で営業活動を始めた。以後、6年間、それで二人の子供を育ててきた。2度目の転職は、昨年訪れた。仕事のプレッシャーと人間関係のストレスから、心のバランスを崩した。自分はこの人生で何をすべきなのか。悩んで苦しんで、環境を変えようと、ボランティアをしたりNPO活動をしたり。その縁がきっかけで、北海道の大学で教員をすることになった。思いもよらない



土地に転居することになったが、信頼できるパートナーがいて、仕事があって、かわいい子供がいて、温かい家がある。卒業後10年間、思い通りにいかないことばかりだった。でも、ムダな経験は一つもなかった。

農産生物学科 平成6年度卒業
難波 美帆

(独)農生機構作物研究所 研究員

農学の面白さを堪能してほしい

まず研究生活の最初に悩んだのが、研究室選びです。私は個々の研究室の実情をよく知らなかったので、「この先生なら研究の面白さを教えてもらえるかも」という研究室を選びました。修士になると本格的な研究生活が始まります。関連した論文を読み、何を明らかにしたいのか、何が知られているのか、何の技術が必要なのかということをしっかり把握し、研究の土台を築くように心がけました。博士課程の学生には自分の研究だけでなく、できるだけ後輩の面倒を見るように心がけて欲しいです。自分の研究を先輩に教え、育てることは、研究者になるための貴重な経験になると思います。また国際学会での発表は、自分の研究がどう評価されているのかを知るいい機会になりました。

大学は研究機関であると同時に、人材を育成する重要な教育機関でもあります。学生の皆さんには指導教員のもと、受け身にならず自由な発想でチャレンジな研究をし、研究以外のことで多くのことを学び取り、農学の面白さを堪能して頂けたら、と思います。



生産・環境生物学専攻博士課程 平成15年度修了
石丸 努

水産庁加工流通課 課長補佐 貿易交渉担当

今すぐ必要! 国際的な人材

農水省で、国際分野に特化した仕事をしてきました。留学と大使館赴任で合計5年以上外国生活を過ごし、現在も毎月のように海外出張する状況です。これからは今まで以上に国際競争の時代になります。アジア諸国などの伸びは著しく、日本も安穏としてられません。ところが日本では、こういった新しい状況に対応できる人材が充分ではありません。

例えば今、WTOの国際紛争などで国際裁判を請け負える人材が日本には極端に少ないのです。これでは国際的な競争になりません。このような分野は、実は他にも多くあるのです。

一つ一つの分野で、プロとして国際的な競争に対応できる人材が必要になっています。どのような組織に属するかよりも、どのような能力を磨いたかが重視される時代が来るでしょう。クリエイティブを發揮し、既存の思考の枠を破りながら、キャリアの長期戦略を考えることが重要です。そのような発想ができる人が、これからの勝ち組になると思います。

水産学科 昭和61年度卒業
八木 信行



まらち動物病院長

模索の旅。獣医臨床

人や動物との新鮮な出会いを積み重ねる毎日が一次診療の実際です。見たり、聴いたり、触ったりしながら、動物の体調を崩す原因を探します。その現場では、問題を解決する能力よりも、むしろ問題の全体像を正確に把握するための問題設定能力が問われます。

話をしない上に非協力的な動物や、見栄を張ったり事実を話してくれない飼い主を相手に、臨床検査を組んだり、質問の方向を変えたりしながら確定診断を目指します。その過程は、小さいながらも様々な発見に満ちています。

そして、ルーチンワークに埋もれそうになりながらも、動物を間に、飼い主と真摯に向き合いながら疾患を診断、治療することによって、動物からも飼い主からも信頼を得られたと実感する瞬間があり、獣医師にとって大きな喜びとなります。

何でもできる内科医、あるいは何でも知っている外科医を志向し模索する日々。獣医臨床は、その遥かな旅程だと言えそうです。

畜産獣医学専攻修士課程 昭和58年度修了
親跡 昌博



農林水産省大臣官房情報課情報分析室 年次報告班係長

役所は堅い? 暗い?

当初大学院に行くつもりで公務員試験はとらずという感じで受けてみました。

元々、農林水産省に対するイメージは「堅い、暗い、疲れたオジさんの職場」だったのですが、面接で会った方が「明るい、若い、元気」な方だったので、イメージが一転、これはいいかもと、入省を決めました。

入省後は、砂糖やでん粉の原料作物の価格決定、制度改革等に携わり、育児休暇を経て、省の環境政策のとりまとめ、窓口業務を行いました。現在、いわゆる農業白書を執筆しています。白書は閣議決定を経て、国会に提出されるため、正確かつ的確な分析を行わねばならないというプレッシャーがかなりあります。

BSE問題以降、職員の意識もかなり変化し、おそらく現在の農林水産省はとてもおもしろい時期にあると思います。

自主的な勉強会など、実務以外の面でも役所生活を楽んでいます。色々な人がいて、意外に? 面白い人も多く、自分次第で役所生活は楽しいものになると思います。

農業構造・経営学専修 平成9年度卒業
村山 牧衣子



株式会社日本総合研究所 創発戦略センター研究員

研究職への就職に必要なもの

研究活動をライフワークにしたい学生にとって、修士・博士課程へ進学するか、それとも民間研究機関に就職するかは難しい判断かと思えます。私自身、シンクタンクに勤務するかかわら、社会人入力で博士課程にも在籍しているため、日々両者のメリット・デメリットを肌で感じています。

大学のメリットは研究分野の裾野の幅広さ、特に基礎研究にじっくり取り組める点でしょう。コストセンターとして成り立っている研究部門も多いとは言え、利潤を求める民間企業では直接的に商品やサービスに結びつかない基礎研究に取り組む余力が少ないからです。一方、民間企業では研究の成果を速やかに社会に還元しやすいという特長があります。

大学の研究と民間機関の研究のどちらか一方が優れているかということは決してありません。各々が望む研究内容とその機関のビジョン・スタンスをよく吟味し、自分に合った研究の場を選ぶことが重要です。

農学国際修士課程 平成15年度修了
農学国際専攻博士課程在学中(社会人入学)
三輪 泰史

